

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091400097		
法人名	株式会社 アップワード		
事業所名	海南グループホームみかんの里	【ユニット名:1階】	
所在地	和歌山県海南市下津町上610-1		
自己評価作成日	平成27年7月7日	評価結果市町村受理日	平成27年10月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成27年7月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>可能な限り毎日散歩や日向ぼっこを楽しんで頂き適度な運動や気分転換が図れるよう配慮しています。入居者様の買い物は個別に付き添い行っており、日々の食材は職員とともに近隣のスーパーへ買い物に出かけています。また、皆さんで外出する機会を設け外食も楽しんで頂いています。食事は毎食手作りで入居者様と一緒にいき家庭的な雰囲気を持続でき、ご本人のやりがい、居場所を確立して頂けるよう心がけています。屋外に家庭菜園や花壇を作り野菜の収穫や花々の観賞を楽しんで頂いています。入浴は曜日や回数に制限なく自宅にいた時と同じように夕方から行なっています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設1年経過する中で運営推進会議の地域からの出席者の協力もあり、地域の人々のグループホームへの理解も徐々に浸透してきている。近隣住民や、小・中学校とのつながりも得られ、地域の事業所としての機能を発揮しようとしている。身体拘束虐待防止、感染症対策、事故対応、サービス向上の4つの委員会を設置し、一人ひとりを尊重し、利用者が安全に暮らせるよう取り組んでいる。ホーム内は清潔に整えられており、リビングの広い窓からは地域の風景を見渡すことができる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ no 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アットホームな環境で地域と繋がりがながら暮らせる「わが家」として事業所理念を各フロア、玄関に掲示しホーム案内パンフレットにも記載しています。職員会議等で周知徹底できるように理念を共有し日々の支援が行なえるようにしています。	職員と利用者がともに共有できることを念頭にわかり易い言葉で作られている。理念に基づいた毎日を送れるよう、日頃の業務の中で気づいたことを話し合うようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催による秋祭り(獅子舞)に参加しまた、今後に関しては近隣の小学校ならびに中学校の行事等に招待して頂く事になっています。	運営推進会議に参加する民生委員や自治会長の協力で地域住民に認知症の人や事業所への理解が徐々に浸透してきている。散歩の途中で出会う近隣の人達とも自然な交流が持てている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において認知症に対する理解を深めて頂ける様努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営状況や行事、活動、入居者様の生活状況の報告を行い、多様な意見交換を行なっています。ご意見等は即実行できるように努めています。	民生委員、自治会長、介護関係者、海南市高齢介護課の職員らと、家族、当事者を交えて、報告、話し合いを行っている。家族には毎回3家族ずつ出席を依頼している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センターの職員に参加して頂き情報交換の場を設けています。また、介護保険課や生活支援課にも出向き相談や情報を得る機会を設けています。定期的な生活支援課からの訪問もあり協力体制が築けるよう努めています。	事業所での運営推進会議や市の会議の中で話し合い、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回、身体拘束防止委員会を行い職員間で身体拘束防止に対する取り組みを行っています。また、積極的に外部研修等に参加し施設に持ち帰り内部研修を行い、職員間で周知し理解を深め、身体拘束、抑制をしないケアを実践しています。	毎月の委員会や外部研修で身体拘束について学び、職員間で気付いた時に指摘し合うようにして、何気ない言葉による拘束もなくなるよう気をつけている。共用空間で安全面への配慮により、施錠しているところが数力所ある。	身体拘束防止の必要性や施錠をしないで安全面への配慮を行うにはどのような工夫ができるかなど職員間で話し合い、認識をより深めていくことが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回、高齢者虐待防止委員会を行い職員間での防止に対する取り組みを行っています。また、積極的に外部研修等に参加し施設に持ち帰り内部研修を行い、職員間で周知し理解を深め、虐待防止に努めています。管理者は常日頃から職員とのコミュニケーションを図り相談しやすい環境を作り状況を把握できるように努めています。		

【事業所名】 海南グループホームみかんの里【ユニット名:1階】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行い、権利擁護について職員一同が学ぶ機会を設け、周知徹底を図っていますが現状、入居者様の中で制度を利用している方はいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約は家族様と複数回面会し理解が得られるように説明を行い質問や不明な点にも納得が得られるまで分かりやすくお応えするよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を1階玄関に設置し申し出しやすいように配慮しています。また、家族様の面会時にはお声をかけさせて頂き、ご意見、ご要望を尋ね話しやすい環境に配慮し、お応えできるように努めています。	毎月家族に利用者の様子を書面で知らせ、随時電話で連絡をとり、家族の訪問時に意見を聞けるような関わりを心がけている。意見箱は設置しているが利用されたことはない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員全体会議を行い職員間の意見交換の場を設けています。また、個別面談を行い意見や相談ができる関係作りにも努めています。	各会議の中で職員の意見が出されている。管理者はできるだけ現場の業務に携わり職員の声を運営に反映できるよう努め、個別面談も年2回行なっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員の勤務状況、職員個々の実績や努力を把握し働きやすい職場環境を整備できるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加してもらい施設に持ち帰り内部研修を行っています。また、施設での勉強会や委員会議を行い職員全体で知識や技術の向上に繋がるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ参加し、知識及び技術等を習得すると共に同業者と様々な情報交換を行い、その事を自施設へ反映する事によりサービスの質向上へと繋げています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活環境が変わる事による心身の負担を最低限に抑えられるように自宅等に出向き馴染みの関係を構築し安心してご入居して頂けるように配慮し個別のケアが行なえるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回見学から相談しやすい雰囲気を作り心がけ家族様の思いや不安、苦悩を受け止める努力をしご入居までに不安や疑問など、その都度サービスの内容やケアの方針の確認を行なっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでの生活上の希望やケアの方向性を話し合い、状況に応じて必要なサービスの情報提供を行い他のサービスや事業所をご紹介させて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人のペースで自分らしく過ごせるようにゆとり時間をかけて関わりが持てるように支援しています。入居者様が「わが家」で暮らしているのと同じように役割を持って生活が送れ和やかに過ごせる様に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間の制限は設けておらず、来訪して頂きやすい雰囲気作りを心がけ、ご本人の日々の様子や希望等を共有できるように努めています。行事にも家族様に参加して頂き、入居者様と一緒に楽しいひと時を過ごして頂ける様に配慮しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様以外の面会者にも来訪しやすい雰囲気作りを心がけ、楽しく過ごせる様に配慮しています。	馴染みの関係が途切れないよう、訪問者や家族との外出も気軽にできるよう配慮している。	利用者から、馴染んできた場所や人の話を聞く機会を持ち、支援に活かすことが望まれる。職員との馴染みの関係を築きやすい職員体制を期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の人間関係も様々ですが、日々助け合いながら生活できている場面が多々見られます。職員が仲介役として良好な人間関係が築けるよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在の所、退居例はありませんが今後、退居された場合は入院先へお見舞いに行ったり、その後の様子をお伺いしフォローや相談支援を続けていきたいと考えます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様お一人お一人の希望や思いを日々の会話等から聞いたり、読み取り、把握するように努めています。困難な場合はご本人の様子や表情、言葉を見逃さず家族様と相談し考え、取り組んでいます。	外気浴で玄関のベンチに座っている時や入浴の時など、利用者の声に耳を傾け、思いを聞けるよう心がけている。家族にも聞き、利用者の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からご本人、ご家族、各サービス事業所から情報収集を行い、フェースシートを作成し職員間での情報の共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケア記録から状態の把握に努め定期的にケアカンファレンスを行い、希望や要望に沿った暮らしが行なえているか確認しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎に、ご本人、ご家族も同席して頂きモニタリング、ケアカンファレンスを行い、職員、かかりつけ医など各関係者と話し合い、計画に反映するよう努めています。	家族の同席が困難な場合もあるが意向を取り入れて計画を作成し、全体会議の中で定期的に検討している。状態に変化があったときには、その都度家族や関係者と相談して計画を見なおしている。	利用者との関わりを密にして、利用者のできること、したいことを十分考慮し、その人らしい暮らしができる介護計画となることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを作成し日々の様子や実践等を記録し職員間で共有を図り、3ヵ月毎の介護計画の見直しを行なっています。特記事項や連絡事項、伝達事項を申し送り徹底して周知できるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に個別のサービスが行なえるように管理者、計画作成担当者、フロア職員とのチームワークを構築し柔軟な取り組みが行なえるように努めています。		

【事業所名】 海南グループホームみかんの里【ユニット名:1階】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の店(松源)への買い物並びに散歩(長保寺)を日課とし、その中で地域住民の方々との交流を図る事で、入居者様一人ひとりが地域に根ざした暮らしが営めるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に往診にて健康管理を行なっています。必要に応じて、ご本人、ご家族が希望する医療機関の受診や緊急時の入院等の支援を行なっています。	通院は協力医療機関以外でも職員の支援が受けられる。協力医の往診が月に2度あり、大部分の利用者が、かかりつけ医を協力医に変更している。必要時には歯科医の訪問もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な往診で医療連携体制を図り、医師との連携を図っています。また、職員として看護師を配置し異常の早期発見に繋げていける努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と連携を図り、面会も重ね入居者様が安心して療養できるように努めています。往診医と入院先の主治医と相談し退院後のホームでの生活や健康管理について検討し出来るだけ早期に退院できるように支援を行なっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、事例はありませんが今後ターミナルケアの取り組みは行なっていきます。早期から往診医の立会いのもと、ご本人、ご家族と、ホームとして出来る事を説明し話し合いを重ね、方針に沿ってご要望にお応えできるようにホーム全体でチームケアの取り組みを行なっていきます。	入居時に事業所での看取りについて説明している。マニュアルが作成されており、未だ該当するケースは無いが、必要になった時には家族、医師と話し合いながら対応していく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常時、職員が閲覧できるようにテキストやマニュアルを備えています。内部研修で講習を行い実践的な訓練や勉強会を行なっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防の立会いのもと避難訓練を実施しています。火災、災害に応じ昼夜を問わずマニュアルを作成しホーム全体で周知できるように努めています。	慌てずマニュアルに沿った対応ができるよう入居者と一緒に避難訓練を行っているが、夜間を想定した訓練は行われていない。	夜間を想定した訓練も実施し、また食料の備蓄等災害に備えた物品を用意しておくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービス向上委員会を設ける事により全職員が、その事を念頭に置き実践へと繋げていけるよう努めています。	毎月の身体拘束虐待防止委員会、2ヶ月に1度のサービス向上委員会の中で、個人の尊重について話し合い、誇りを損ねない言葉かけや対応ができるよう気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりお話しし、ご本人の思いや要望を確認し出来るだけ意向に沿った支援が出来るように努めています。意思表示が困難な方へは表情や言動、行動を見逃さず理解できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が業務優先にならないよう入居者様のペースを優先し柔軟に対応できるよう心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性、女性を問わず、買い物に出かけ衣服を選んで購入されたり、その日に着る衣服を選んだり、それぞれに気を配る配慮を行なっています。また、整容ではカットサービスに来てもらいそれぞれの好みのヘアスタイルにして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ入居者様のご要望にお応えできる献立を工夫し個々に食べやすい調理の内容の工夫も行い楽しんで頂けるように努めています。職員と一緒に準備から配膳を行い、テーブルを囲み食事をし、後片付けを行なう光景は家族そのものです。	本部で作成した献立を基本に食材の買い物に数人の利用者と地域のスーパーに出かけている。調理は職員が行うが、利用者が手伝うこともある。職員が同じテーブルと一緒に食事を楽しむ姿もみられる。	利用者のできること、したいことに配慮し、準備から片付けまで、生活の中で食事の一連の時間を共に行い楽しむ支援が望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立に偏りがないよう注意し食事量や水分摂取量の記録をつけ、必要量が確保できているかチェックし、個々の状態や様子を観ながら支援を行なっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が付き添い口腔ケアを行なっています。また、必要に応じて歯科のかかりつけ医に来て頂き義歯調整や治療を行なっています。		

【事業所名】 海南グループホームみかんの里【ユニット名:1階】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し定期的にトイレのお誘いや付き添いを行なうことで失敗を減らしオムツの使用を減らすことができています。トイレで排泄して頂けるように工夫し自立支援を行なっています。	入居時オムツを使用していた利用者も、排泄の記録を取り、さりげなくトイレに誘導し続けて、トイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し水分補給の徹底と食物繊維を多く含む食物を摂取して頂くように努めています。また、毎日散歩に出かけ適度な運動に繋がり、便秘の改善に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お家にいる時と同じように基本的に毎日夕方から入浴して頂けるようにご用意しています。個々の体調や気分によって入浴されない方もおられますが、その時に応じて楽しんで頂けるように配慮しています。	スムーズに入浴できるよう、誘導、脱衣、入浴介助の職員の役割を分担して、夕方の時間帯に毎日でも入浴を楽しむことができるよう支援している。安全面の配慮から入浴時間以外は浴室に施錠している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間の取り決めは特になく、自由に過ごして頂ける様に配慮しています。個々のペースに合わせて休息したり入眠前には必ず挨拶を交わし安眠できるように心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに服薬説明書を綴り、職員が周知し内容を把握できるように努めています。服薬の変更等あれば伝達事項、申し送りを徹底して行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や作業など、それぞれ役割を持って頂き、職員と一緒にやり、やりがいがいいと感じて頂ける様に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩以外に外食や買い物など皆様と一緒に出かけの機会を設け楽しんで頂いています。また、家族様との外出も自由に出かけて頂き、家族様との絆も深めて頂けるように心がけています。	年に3回程度、事業所全体で花見などの行事を企画して出かけている。近隣の散歩は日常的に行われており、ドライブを兼ねた買い物にも数人ずつ出掛けている。受診の帰りなど、個人の買い物に同行することもある。	

【事業所名】 海南グループホームみかんの里【ユニット名:1階】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族様に管理をして頂いています。ホームでは小口をお預かりし管理していますが外出の際には職員が見守りを行い、入居者様に持参して頂き支払いを行なって頂いています。ご希望により小額ですが所持されている方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があればフロアの電話を使用させて頂いています。但し緊急時以外は家族様、知人様へ配慮し夜間の使用はご遠慮頂いています。家族様、知人様へのお手紙等は近隣のポストへ投函しに行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、リビングはソファやテレビを置き、ゆっくりとくつろげるスペースを確保しています。リビングは大きな窓がありカーテンで光の調整を行なっています。壁には入居者様が季節ごとに壁画を作成して飾り、季節感が感じられるように配慮しています。トイレや浴室は分かりやすく表示をつけています。	採光の良い大きな窓から見える周囲の風景に季節感が感じられる。ユニット内の共用空間には折り紙の飾りが壁に施されている。暮らしのなかの生活感を感じるものはあまり無く、すっきりと清潔に整えられている。	暮らしを感じられる装飾や調度品の工夫、家具の配置等で、利用者が思い思いに過ごせる生活感のある住まいの共用空間となることが望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで過ごされる時間の方が多いためテーブルとは別に椅子などを置き個々に過ごせるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談し使い慣れた自宅の家具や小物を持参して頂き、居心地良く過ごせるようにしています。	洗面台が設置された居室内は清潔に整えられている。持ち込まれた衣装ケースなど、同様のものが多く、よく似た印象の部屋が多いが、家族の写真や小物などでその人らしい快適な部屋となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活リハビリを念頭に置き、家事一般にそれぞれ出来る事から行なって頂き自立した生活が送れるように支援しています。また、廊下には手すりの設置や、各場所に目印や表示を掲げ分かりやすいように配慮しています。		